北海道釧路総合振興局管内におけるソリハシセイタカシギ *Recurvirostra avosetta* の初記録

横山　篤史[※1]・城石　一徹[※2]

First record of Pied Avocet, *Recurvirostra avosetta* in Kushiro Subprefecture, Hokkaido

Atushi YOKOYAMA[※1] and Ittetsu SHIROISHI[※2]

Summary
Up to six Pied Avocets *Recurvirostra avosetta* were observed in Kushiro City, Eastern Hokkaido, Japan from 18 December 2022 to 14 January 2023. This report is the first record of this species in Kushiro Subprefecture, Hokkaido.

はじめに

ソリハシセイタカシギ*Recurvirostra avosetta*は，チドリ目セイタカシギ科ソリハシセイタカシギ属に分類される鳥類であり，ヨーロッパやアフリカ北西部，アジア西部および中部からモンゴルにかけて断続的または局所的に繁殖する（日本鳥学会 2012）．本種は地中海地方やアフリカ，インド，中国南部で越冬することが知られており，日本でも少数が越冬する（日本鳥学会 2012）．

筆者らは2022年12月18日から2023年1月14日までの期間に釧路市星が浦地区において，最大6羽のソリハシセイタカシギを観察した．本種の釧路総合振興局管内における記録はこれまでにない（日本野鳥の会十勝支部2010，藤巻2012，貞國2019，横山2022）．

したがって本記録は同管内における本種の初記録であることから，ここに詳細に報告する．

観察記録

筆者らがソリハシセイタカシギ（以下，本種）を観察した場所は，北海道南東部に位置する釧路総合振興局管内の釧路市を流れる星が浦川河口部（43° 00'15.4"N, 144° 18'42.2"E）であった．

星が浦川河口部では星が浦川本流のほか，東側の地下水路から流入する別途前川及び，西側地下水路から流入する竜神川の二河川が合流する．合流点より下流直下では小高い海岸砂丘が形成されているため，東側へ蛇行し，釧路市西港区第四埠頭の岸壁沿いを経て，太平洋へ流入する．

そのため，合流点から下流は砂質海岸の影響を受け，河床から岸辺は砂質となっている．星が浦川河口部周辺にはハマニンニクLeymus mollis，シロヨモギ*Artemisia stelleriana*，ハマニガナ*Ixeris repens*，オニハマダイコン*Cakile edentula*などが生育する．

筆者は，2022年12月18日8時22分，星が浦川河口部において本種6羽を観察したことから（写真A），当日は観察もれが生じないように，昼頃と夕方頃も赴いて，3回の観察を行うこととした．

写真 A

また，本種の観察場所は殆ど別途前川と竜神川の合流地点から下流であり，距離は遠くても300 m程度であったことから，観察は主に双眼鏡で行った．
なお，本種の記録や詳細な確認の際には，一眼レフカメラでの撮影を行った．

初認時には，別途前川と竜神川の合流地点から下流で6羽が群れで泳いでいたが，8時42分に同所から全て北へ飛去し，目視での確認ができなくなったことから観察を終えた．その後，10時45分に2回目の観察で現地へ赴くと，10時50分に初認の観察地点で泳ぐ同種6羽を再び発見し，観察を行った．

そして，10時59分に6羽が飛翔し，別途前川と竜神川の合流地点付近を経由しつつ（写真B），星が浦川河口部付近の海岸へ移動したことを確認して，2回目の観察を終えた．3回目の観察では14時50分頃に現地に観察へ向かい，15時4分から15時11分までの時間で，星が浦川河口海岸で6羽の観察を行った．

※1　くしろ　うみぴりか　Kushiro Umipirika
※2　日本野鳥の会オホーツク支部　Wild Bird Society of Japan, Okhotsk

写真 B

写真C

そのうち2羽が採餌活動，4羽は休息を行っていたことを確認して，12月18日の観察を終えることとした．
本種は12月19日以降も，星が浦川河口部において1羽から3羽をほぼ継続して観察できた（表1）．

星が浦川河口部における本種の主な行動は，採餌行動及び休息だった．採餌行動は水面付近または水底で採餌する様子が見られた．水面付近での採餌は嘴を僅かに開いた状態で左右に振りながら，微小な生物をすくい上げて捕食しているように見えた（写真C）．また，水底付近における採餌行動は，側腹部が浸水する水深付近で頸を水中へ入れながら遊泳採餌を行ったり（写真D），逆立ちをしたまま水底へ頸を伸ばし採餌する様子が見られた（写真E）．本種が星が浦川河口部で何を採食しているかは確認できなかったが，当地で類似種が普段採餌しているものを鑑みると，星が浦川河口部で生息する小魚や水生昆虫などが考えられる．

また，本種の観察場所は殆ど別途前川と竜神川の合流地点より下流か，河口上流の東側蛇行部近辺だったが，2023年1月2日以降は，時折ハシボソガラスにモビングされている姿が観察され，1月12日では河口上流の東側蛇行部近辺で休息を行いつつも，上空を気にしている様な行動が見られた．1月13日には，別途前川と竜神川の合流地点より下流で，ヒドリガモ13羽とキンクロハ

写真D

写真 E

表1　ソリハシセイタカシギ観察記録

観察日	羽数	観察場所	観察機材	観察日	羽数	観察場所	観察機材
2022/12/18	6	B→D	双・撮	2023/1/1	3	B	双
2022/12/19	2	C	双	2023/1/2	1	B	双
2022/12/20	3	C→A	双・撮	2023/1/3	1	B	双・撮
2022/12/21	0		双	2023/1/4	1	C	双
2022/12/22	3	B→A	双・撮	2023/1/5	1	C→B	双・撮
2022/12/23	3	B	双	2023/1/6	1	C	双
2022/12/24	0		双・撮	2023/1/7	1	C	双・撮
2022/12/25	2	C	双・撮	2023/1/8	1	C	双・撮
2022/12/26	2	C	双	2023/1/9	1	C	双
2022/12/27	2	C	双	2023/1/10	1	C	双
2022/12/28	2	C	双	2023/1/11	1	C	双・撮
2022/12/29	2	C	双	2023/1/12	1	B	双
2022/12/30	2	A→C	双・撮	2023/1/13	1	B	双
2022/12/31	3	C	双・撮	2023/1/14	1	B	双

羽数
観察日に確認できたソリハシセイタカシギの羽数

観察場所
A…別途前川/竜神川合流地点
B…別途前川/竜神川合流地点から東側蛇行部前
C…亙側蛇行部近辺
D…星が浦川河口部海岸

観察機材
双…双眼鏡での観察
双・撮…双眼鏡と一眼レフでの観察

ジロ3羽と休息している本種1羽の観察を行ったが，本種の観察期間中に他の種と休息を行っていたのは初の観察であった．

考察

2022年12月14日から16日にかけて，北日本を中心に冬型の気圧配置となり，北海道内では広く西風に見舞われ，また道北地方では最大瞬間風速20 m/sを超える西からの強風と降雪に見舞われた（気象庁オンライン）．2022年12月15日7時45分頃では，当観察地周辺において本種を確認していなかったこと．さらに星が浦川河口部で17日に野鳥観察を行っていた方々の話から，本種の確認はなかったとの情報を得たことにより，前述の強風や積雪等の気象要因によって，18日に星が浦川へ迷行した可能性が考えられる．

そして，本種は北海道内において通常では春と秋に観察されることが多く，冬季での記録は稀であること，2022年12月4日に稚内港で7羽の観察報告があること（野鳥愛護会2023），さらに本種が釧路市で観察される前に，道北地方で強い西風に見舞われていたことから，推測の域はでないが，稚内で観察された記録と本観察記録は，何かしらの関連があると推測される．

なお，本種は2023年1月14日6時59分に，別途前川と竜神川の合流地点より下流で休息していた1羽の観察が終認となった．その後，1月16日の釧路市は市内中心部で16 cmの降雪だったこともあり，荒天前に移動した可能性も考えられる．

また，2022年12月25日以降は2羽の観察だったが，12月31日と2023年1月1日には3羽を観察した．その期間の観察である12月25日の本種2羽の胸部及び腹部に，12月28日頃から星が浦川の影響による茶褐色が確認できたが（写真F），12月31日から増えた本種1羽には，胸部及び腹部に茶褐色は確認されなかった（写真G）．

この観察から，2023年1月以降の観察では，星が浦川河口部付近の河川に，初認時から減少した本種が移動している可能性もあると考え，観察地付近である新釧路川河口と阿寒川河口の踏査も行ったが，確認できなかった．

この踏査結果と，2022年12月4日に稚内港で観察された本種が7羽であったこと，星が浦川河口部での初認では6羽の観察だったことから，稚内港での残り1羽が12月31日以降に星が浦川へ飛来した可能性も考えられる．

写真F

写真G

謝辞

本稿を取りまとめるにあたり，貞國利夫氏（釧路市立博物館）からは北海道内におけるソリハシセイタカシギの記録について情報提供いただいた．ここに記して厚く謝意を申し上げる．

引用文献

貞國利夫．2019．釧路湿原鳥類目録-1935年～2019年の記録．釧路市立博物館紀要，38：23-80．

日本鳥学会．2012．日本鳥類目録改定第7版．日本鳥学会，三田．

日本野鳥の会十勝支部．2010．北海道東部鳥類目録．日本野鳥の会十勝支部，帯広．

藤巻裕蔵．2012．北海道鳥類目録改訂4版．極東鳥類研究会，美唄．

北海道野鳥愛護会．2023．北海道野鳥だより．第211号　北海道大学，和賀．川森．外岡．

横山篤史．2022．2013年から2021年までの星が浦川下流域における鳥類観察記録．釧路市立博物館紀要，40：31-40．